

主要科目の目標、特長

(人間学部 コミュニケーション社会学科)

授業科目の名称	目 標	特 長
異文化コミュニケーション論	現在、急速な国際化の流れの中で、日本人も文化的背景の異なった人々と接触し、交流する機会が多くなり、以前にもまして異文化コミュニケーション能力の必要性が高まっている。本講義では、コミュニケーションの理論を学び、学生間でのグループディスカッションを通じ、サブカルチャーも含めた異文化間の実践的なコミュニケーション能力をつけることを目的とする。	コミュニケーション理論を学ぶと同時に、事例研究も加え、理論と実践の両面からコミュニケーションを研究する。テキストに「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション」を使用し、授業は、発表とディスカッションが中心となる。
コミュニケーション社会学	本講義では、コミュニケーションに関する社会学の理論を解説し、家族、友人、恋愛関係など複数のテーマを取り上げながら、日常生活におけるさまざまなコミュニケーションの形態を多角的に分析する。本講義の目標は、そうした分析から人間関係において「やさしさ」や「空気を読む」ことが求められる現在の社会の問題を把握することである。	コミュニケーションとは何かを多様な側面から捉えるために、家族や恋愛、学校、ジェンダーなど多くのテーマを取り上げている。コミュニケーションに関する理論の講義に加えて、映像資料や新聞記事の分析を組み込んだアクティブな授業を行っている。
サブカルチャー論	サブカルチャーはそれらの担い手である下位集団あるいはマイノリティの価値観、社会的位置、コミュニケーション形態、アイデンティティ形成と相互に影響を与えあっている。また同時に、消費化、情報化、グローバル化といった社会変化と連動しつつ多様なサブカルチャーが生産・流通・消費されている。本講義では、現代のサブカルチャーを具体的にに取り上げ社会学的に検討する。	講義序盤では、文化の社会学理論を幅広く概説し、社会学におけるサブカルチャーの位置づけとアプローチ方法を学ぶ。中盤以降は各論に入り、ファッション、インターネット、オタクといったサブカルチャーを取り上げ、具体的に検討する。
まちラボプロジェクト演習 I・II	地域社会の状況分析、評価等を踏まえ、地域社会の現状と問題点の把握、その解決思考と実践的行動力などの育成を、地域と連動した大学教育の中で学んでいくことを目的とする。講義形式やゼミ、受け入れ先のプログラムに沿った学習形態であるインターンシップとは異なり、あらかじめ具体的な学習内容は決められていない。受講生は担当教員、あるいは連携先とアイデアを出し合い企画を立案し、実践していく中で、社会人基礎力が育成できるようになる。	連携先とのコミュニケーションを密に取り、学生間、学生・連携先等との協働体制を構築しながら課題解決を実行する必要性が生じ、自主的・自立的で主体性のある取り組みを実践する力を培うことが出来る。社会問題解決・改善という成果を得ることを目的としているが、その過程における協働体制の構築、コミュニケーション・プレゼンテーション能力の研鑽、リーダーシップの発揮などという社会人を培うことが出来る。